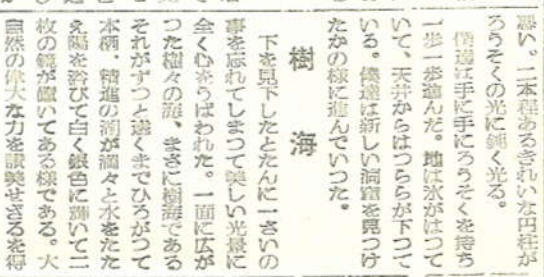


海が見えなくて申救に出た。左の方には船がかならずに見えた。右には松並木の続く道が見えた。大勢は見えない。

波はさんだん大きくなり船は水面につかと思われる程傾いた。僕の腹の中がへんになつてきた。

によつてしまつた。手すりにして
かり手をまぎつけてうつむいては
た。もう生きた心地もしなかつた。
何も考えたくなかつた。ただ大
然の力の大ききにおどろくばかり
である。自然の力と比べて人間



煙火口はあかり一面露に包まれ
よくわからなかつた。あつちこ
ちの密岩の間からはよくふくと
をたてて。落着きけむりがあが
っていた。僕はなんだかこわかつ
てひまがあつたらとゆうゆうに
わつていた。

修 禪 寺

真中に河が流れて受持のいい町
だ。静かな町だ、山中の村でと
りゆうにむいた村だ、大きくなつ
てひまがあつたらとゆうゆうに

なんともいえない。「富士山や」
と言われて目がさめた。と言つ
て、自分でも寝ていたのか眼を
びつていたのかははつきりしな
い。おぼろけがした。よほどつか
れたのかと見える。

樂符

レコード

© 2006 Pearson Education, Inc. All rights reserved. This publication is protected by copyright. Any unauthorized reproduction or distribution, in whole or in part, without written permission from Pearson Education, Inc., is prohibited.

東大寺法華堂の禮堂の三手先肘木

奈良の代表的な建物である東大寺へ行く。まず目につくのは南大門である。南大門はその堂々とした新しい様式を採用した。その結果あのように活動的な力強いものとなった。

た終を、荒々しい力で我々を圧迫してゐる。おもそのな屋根の裏側、
とて同じ東大寺の境内にある法華堂（三月堂）は、その時の遺蹟で、
兵火からまぬがれて、天平時代改作した。その頃の遺蹟で、
化をその板に残している。南大門が活氣的なのに対して、きわめて
静かな感じである。その特徴は双
堂形式と言われ、本堂と礼堂とが
一つの建物となつてゐることである。又、肘木と呼ばれ、
方に突出して屋根を支えている。當因には平彫刻の代表作である本願
不空罍（アムイ）
（文・宮崎端夫）
（絵・本田 旭）

第七号（昭和二十八年十一月号）に三巻君は「ローマ字について」という短い論文を寄せて、次のように論じた。

「日本語は、字がむずかしいので、書く時に忘れて不便であるローマ字にすれば忘れることはないから、国字はローマ字にしたい。その書き方は、力行は

宮地裕

右の論は三つにわかれ、第一は日本語記における文字は悉く易いから、ローマ字書きにしようということ、第二はその具体的な表記法である、私は今、このすべてについて徹底的に論議したいが、紙張ゆとりもないし、考への及んでいない点もあつて、十分には述べられないので、主として、根本的な点において三善翁の親自筆を批判してみたいと思ふ。

第一の「むずかしい」とか、

現代世界に最も広く流通している文字であることは言うまでもないから、それを当然で自明の理由とするのだと思うが、それならば、同じ理由だけで、英語を日本の國語にせよという説が成り立つかどうか。これも考えねばならない。スターリンの言語観によれば、ソヴィエト連邦の各民族の言語は、それなりに認められるべきであり、中共の教育政策を見れば、全国范围内に識字運動を起して漢字を大衆に教えている。いずれも、言葉の伝統、その文字の深さの伝統を教へ

3 年 C 組
辻 禧久郎

小学校の頃であつた校庭で五人が集まり將來になくなるかといふことを話し合つてゐた。その時その中の一人が僕に向つて「お前將來になくなるのや」ときいた。僕はまだこのやうな質問は生れて始めてどう答へてよいのかわからなかつたから「將來必ず大人になつて」みせると答へて大笑したことがあつた。その時からずつと今までそんな問題をわすれてしまつてゐた。だからといつて全然忘れてしまつたわけではない。時々本を讀んでいて良いところがあると思ふところになりたつとそれになりたつと思つたことがある。この間S君から「『乞食三日』したらやめられん」といふ言葉をきいたこともなかなかに良いなと思つた、何故ならばただ窮つておれば金をもちえるが後で考へてみると楽しみがなくなつた。又或人の語によれば「坊主まるもうけ」これは「口で癡言の端きをいつておればよいし」「あんまつかみどり」これも、肩をつかむのと同じ様子を金もちえらる。そして又、「悲れそはいい」「花八そうば」といふ言葉もある。又二、三日まえのこと、新聞を讀むと「医療分業」について記事が書かれてあつた。これは昭和三十一年まで保留ということになつてゐる。もし医療分業になれば僕は薬剤師にならうと思つてゐる。これははわけがある。わけというのは僕は医術がつとまらんと思ふからである。何故ならばメスをもつのがよくつとだけ恐ろしいからである。又時々患者にならうと思つたことがある、これは小兒まひの麻痺体を見つけたそれを直そうと思つてゐる。どうも僕はこの病氣がしやくにきつてゐる。又父は僕を今の仕事の後に進めしうとも考へてゐない。なせならは苦勞もせずに藥をするのは意志の強い人間にはなれぬからである。だから私はまだなんにも考へてゐないのでありませう。しかし、そのうちに僕の將來の仕事を実際に考へる時がくると思ふ、その時までこの間は前上げにしておこうと思ふ。

子供寫生会において

二年C組の西尾敏彦君は五月三十日（日）に仁和寺附近でおこなわれた西陣少年補導委員会主催の「子供写生大会」において「努力賞」を獲得した。

晩春の庭

二年B組 (10)

乾　達　明

夏休みの中頃から九月の終りにかけて、にわの緑の間に、白、赤の色をそえる芙蓉の木にも、黄緑の葉が形を略々初めた。

宅にはこの芙蓉の木が四、五本うわつてゐる。渾木ではあるが、横に大きく面積を取るので、傍の無子（なでしこ）がかわいそうなようである。

顔をしているのは、椿である。木の間に、紫の間に、そして手洗湯に生けられて、ともかくも自分の使命をはたしたように、残つてゐた花も、こげ茶色に変色してしまつた。

庭に面している隣のへいにつたが、はえの罌り、風にゆられながら、その数をましてゆく。

このように自然は夏への準備を

編集室だより

いろいろな形でわれわれの認識に知らせてくれる。

評 晩春の時の風情がよく出ている。

我輩は卓球台である

この間まで、飛石の影に細々と

合である。

にお願いする次第だ。
生徒諸君よ!!この我輩を利
しい体を作り上げてくれ。そ
のぞのぞ!!

文藝部雜誌発行

生徒から原稿つのに
文芸部では、今度新しく文
誌を発行することに決定し
生徒の中からの投稿を待つて

御 制 服

毎度ありがとうございます
みなさまの御制服をあつかう

TEL 2{—0254
2{—3436

京都制服衣料工業協同組合